

第16回 世界代表司教会議（シノドス）に向けて 教皇の開幕宣言日 資料
2021年10月10日 年間第28主日ミサ

日程・・・ 2021年10月9日~10日 教皇の開幕宣言 2023年10月に開催予定
10月17日・各地方教会（教区）での シノドス開会宣言ミサ
以後・・・2年をかけた準備

(1) 概要

①テーマ・・・「ともに歩むため 交わり 参加 そして宣教」

②ねらい・・・福音化に向かう「教会の在り方」 キリストの体の多様性の理解

＊解決すべき様々な緊急課題を抱える現代社会の中で、教会がどのような姿勢をもって・福音宣教にあたるのか、教会の姿勢（教会の在り方）を問う。

③基本姿勢・・・これは「イベント」ではなく「神の民」の固有の役割をもってかかわりあうプロセス。

・地方教会の参加（バチカンと地方教会との関り）特に 信者総体に耳を傾けることを大切にする。

④シノドス準備文書（バチカンから）の前提・

・ 第二バチカン公会議による教会は = 「交わり証しする教会」

・ 「教会」とは「神の民」である。司祭 修道者 信徒 固有の召命の交わり・協働
教会法 208 条・「すべてのキリスト信者はキリストにおける新生のゆえに、尊厳性においても、行為においても真に平等であるから、みな、それぞれの固有の立場と任務において、キリストの体の建設に協働する。」

・ 「教会は秘跡である」・・・秘跡とは

見えない神の恵みを見える印をもって表す

(見えない) 父なる神 = イエスとなる (見える)

復活のイエス (見えない) = 出会った人々は教会共同体となる (見える)

教会は「父の心=イエスキリストの恵み」をこの社会に証しする=福音宣教

(2) 「準備文書」のポイントの言葉

①・ともに旅をする教会・

・社会において交わりに生きる教会は、聖霊の働きによって、神の民、さらに貧しく、小さくされた人の側にたち、耳を傾け識別しながら、教会が自らをたえず刷新し成長することを求め「ともに旅する教会」と自覚しています。

②. シノドス的な教会

- ・シノドス的な教会とは 交わり 参加 宣教 という教会の本質を表す言葉です。洗礼・堅信の秘跡によって私たちはキリストの使命 祭司職 預言職 王職に招かれ 神の民として福音化の能動的な主体となるのです。「ともに旅をする」ことによって多様なたまもの カリスマとの出会い、それは全ての人の善を追求し その交わりが全人類の一致の印 道具となることを願うのです。

③ シノダリティ（交わり）の実践・・神の民に意見を求めるための道すじ

- ・福音を告げながら「ともに旅をする教会」は神の民の具体的な生活に根ざしています。その中でどのような経験を持ち、そこから何を学んでおられるかを問いかけます。
 - a) ・この基本的な質問がどのような経験を思い起こさせるでしょうか
 - b) ・これらの経験をより深く読み直してみる。どのような喜びをもたらしたか。
 - ・どのような困難や障害に遭遇したか。どのような傷が明るみに出たか。
 - ・どのような洞察が得られたか。
 - c) ・分かち合うべき果実を集めること。
 - ・これらの経験の中で、聖霊の声はどこで鳴り響いているか。
 - ・聖霊はわたしたちに何を求めているか。
 - ・確認すべき点、変化の可能性、踏むべき段階は何か。
 - ・どこでコンセンサス（合意・意見の一致）を得られますか。
 - ・わたしたちの部分教会には、どのような道が開かれているか

(3) シノドスの 探求すべきテーマ別 10 の（質問）要点

① 旅の同伴・・教会でも社会でも、私たちは同じ道を並んで進んでいます。

- ・私たちとともに「旅をする」のは誰ですか
- ・「わたしたちの教会」というとき、誰がその一部でしょうか（NICE の優先課題 2）
- ・誰が私たちとともに旅をすることを望んでいるでしょうか（福音マーケット）
- ・また どういう人、グループが取り残されているでしょうか？

② 聴くこと・・聞くことは最初の一步ですが、それには偏見のない、開かれた精神と心が必要です。

- ・誰に対して「耳を傾ける必要がある」でしょうか
 - ・信徒 若者 女性・・どのように耳を傾けてもらっているでしょうか。
 - ・修道会（男女）の奉獻はどのようにかかわっているでしょうか
 - ・少数派（マイノリティー）や見捨てられた人 排除された人の声に耳を傾ける場はあるか
 - ・耳を傾けるに妨げとなる 偏見や差別 固定観念を認識していますか
-
- ・私たちの生活において社会的 文化的背景に対して、どのように耳を傾けていますか